

# 平成28年度年度末 学校評価アンケート結果

福島県立只見高等学校

12月に生徒、保護者、教員を対象とした今年度の学校評価アンケートを実施しました。その結果をお知らせいたします。(アンケート回収率：生徒100%、保護者81.4%、教員100%)

## 1 アンケート項目および評価方法

以下の4つの大項目の中に各5～6の小項目を設け、4段階(A～D)※で評価しました。

- I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)
- II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)
- III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)
- IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

※

- A:「はい」
- B:どちらかといえば「はい」
- C:どちらかといえば「いいえ」
- D:「いいえ」



## 2 アンケート結果

※達成度=評価Aを90%,Bを70%,Cを30%,Dを10%として評価者数で平均した値

### (1) 各評価者からみた平均達成度(昨年度)

生徒	保護者	教員
68.1%(66.6%)	71.3%(69.6%)	70.2%(67.8%)

### (2) 各評価者からみた高い評価(各3項目)

順位	項目	達成度	順位		
			生	保	教
生徒	1 あなたの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	80.7	1	2	8
	2 あなたは部活動等に積極的に取り組んでいますか。(～いましたか。)	77.0	2	1	14
	3 あなたは整理整頓に心掛け、清掃は積極的に行っていますか。	75.5	3	10	17
保護者	1 あなたのお子さんは部活動等に積極的に取り組んでいますか。(～いましたか。)	83.1	2	1	14
	2 あなたのお子さんの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	82.0	1	2	8
	3 あなたや生徒が提出した書類(申請)について、学校はきちんと処理していると思いますか。	78.0	4	3	1
教員	1 生徒・保護者から提出された書類(申請)や徴収金の受付処理及び管理を適正に行っていますか。	84.1	4	3	1
	2 わかる授業をするための工夫をしていますか。	81.8	6	9	2
	3 評価は能力・態度・意欲等の総合的評価になっていますか。	80.6	11	7	3

### (3) 各評価者からみた低い評価(各3項目)

順位	項目	達成度	順位		
			生	保	教
生徒	22 あなたは学力の向上に向けて、計画的に家庭学習を行っていますか。	57.4	22	21	22
	21 あなたは進路実現に向けて、補習や個別指導に積極的に参加していますか。	59.5	21	16	14
	20 あなたは進路に関する自分の適性をよく知っていますか。	62.1	20	17	20
保護者	22 学校には生徒の悩みや問題、いじめ問題に関して相談できる教職員がいますか。	63.3	19	22	10
	21 あなたのお子さんは、学力向上に向けて計画的に家庭学習を行っていますか。	64.7	22	21	22
	20 学校からの進路に関する情報提供は適切だと思いますか。	64.9	18	20	19
教員	22 生徒は計画的な家庭学習を行っていますか。	39.4	22	21	22
	21 生徒の進路目標は明確になっていると思いますか。	54.7	15	12	21
	20 生徒の進路に関する適性をよく知っていますか。	60.6	20	17	20

## 3 アンケート結果の分析

### I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)

今年度から各学期に1回「授業力向上週間」を実施し、教員間の互見授業と全職員による反省事項の共有を通して、教科指導力の向上を目指しました。アンケートにおいても、本校の全ての教員がわかる授業と個々の生徒を生かす評価の工夫をしていると答えており、このことは大部分の生徒、保護者にも理解していただいたようです。しかし、生徒の自主的な学習につながる十分な動機づけには至っていないのが現状です。生徒の家庭学習の成果が生かされ、成功体験につながる授業展開の工夫はもちろん、生徒の学習状況に関するさまざまなデータを生徒・保護者・教員間で共有し、それぞれの立場でその役割を果たしていくことが重要です。また、全ての学力層に応じた学習支援が求められています。現行の全体指導と個別指導、習熟度別授業の在り方の検証とともに、生徒の志望大学の問題分析や外部模試結果の共有と活用をさらに充実させ、国公立大学を含めた四年制大学進学者を強力に支援できる体制を整えていきたいと考えます。

### II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)

本校は各種講演会によるガイダンス機能や表現活動、体験的な学習を通して生徒の職業観を醸成していますが、進路意識が遅い生徒、目標ははっきりしているがそれに見合った継続的な努力ができていない生徒が多い傾向があります。アンケート結果からも生徒自身はもちろん、保護者及び教員も生徒の進路適性の判断に少なからず迷いがあることがうかがえ、改善のための具体的な方策が必要です。各学年段階で、自分の適性を考える諸調査や学習場面を設定したり、生徒と保護者が互いに進路についての学びを深め、話し合う場を設定したりして、三者が一体となって進路決定や職業研究ができる体制を作っていく必要があります。また、課外授業や個別指導に参加する意識のズレが教員と生徒の間で見られました。「やらされている」のではなく、生徒自らが達成目標を持ち、成績の伸長を実感しながら学べるよう、課外授業や個別指導の在り方をより充実させる必要があります。進路情報の提供に関しては、教室の掲示物の工夫を軸に、各種広報媒体の利点を生かしながら、新鮮で役に立つ情報をタイムリーに発信できるよう校内の体制を整えていきたいと思えます。

### III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)

清楚な服装・頭髪という面においては、三者が高い評価であり、まさに本校の自慢とするところです。今後も日々の指導と併せて、三者の共通認識のもと生徒の基本的な生活習慣の定着を進めます。部活動への取組においては、課題を提出できず思うように部活動に参加できない生徒が一部見られるのが残念であり、こうした状態が生徒・保護者と教員の評価に差が表れた要因かと思われまます。一方、教育相談体制の整備に力を入れているところですが、まだ十分な信頼を得られていない状況です。授業や学校行事を通じた信頼関係づくりと相談しやすい環境整備、校内での教職員研修をより充実させる必要があります。面接週間や教科担任による面談、各種アンケートの結果を積極的に活用し、問題を抱えた生徒への早期対応に、より一層力を入れていきます。また、いじめ問題の根絶に関しては、SNSの正しい活用法を学ぶガイダンスやSST(ソーシャルスキルトレーニング)を取り入れ、自己表現や他者理解の重要性を計画的に指導しています。昼休みの全職員による巡回も日常的に行っており、今後も未然防止、早期発見、早期対応を職員一丸となって進めていきます。

### IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

生徒達は毎日の清掃に非常に熱心に取り組んでいます。町内通学路のゴミ拾い活動の場面でも、進んで山林に分け入り、粗大ゴミを見つけてくる生徒が多く見られ、生徒一人一人の奉仕の精神に感心させられることが多々あります。今後も、指示をされる前に次の作業を予測し、率先して公共の美化に努め、実践できる力を育てていきたいと思えます。しかし、私物の整理整頓に関しては、生徒と教員の評価に差が見られました。学習プリントや問題集の紛失につながっているケースもあり、当該生徒への指導と併せて、教室の環境整備にさらに力を入れる必要性を感じました。また、学校から家庭への情報提供に対し、保護者の評価が低めであるという結果が出ました。全体的な改善策はもちろん、特に寮生の保護者への定期的な連絡とその手段を只見町と連携を図りながら進めていきます。さらには、昨年に引き続き「生徒が楽しく学校生活を送っているか」という認識に、生徒と保護者、教員間で多少ズレが生じています。学校と家庭、それぞれの立場で生徒の正直な気持ちに歩み寄り、困難を感じている部分の共有と、適切な支援を行っていくことが今後ますます重要であると考えます。